救荒草品圖

L616
キ

三重縣立圖書館
12 11 25
14289

夫五穀ハ天の人世ニ下し施し給へる大寶ニして則人間生養の本也志かるに天保度の飢饉より間もなく去年の凶作にて萬民困窮の大災なれバ恐れ慎ミて尊きも賤きも真実ニ心を用ひ救荒の工夫肝要なり古へ聖賢の御代ニハ蓄積の法とて三年耕

してかなしば一年の食をつゞまして凶年の料となしぬるなり先飢饉の備へとてハ粗食を用ひ米穀を喰延るにしくハなしされバ菜大根よろづの摘菜又ハ海草などを粥雑炊へ加へて穀食の助にいたすべし嚮に平松はうど救荒の艸品を探しもとめねもごろに

調味を試正し板行しけるより今世上に
裨益あること廣大なりさてびんぼうじに
問ひ計りて其艸品のうち手近き品を
絵になして食用の事を人々に知しめん
とく夫子も百行の本思ふを上とせと云
希は粗食の一字を深く思へ行ひ同胞の

心（こゝろ）を以（もつ）て互（たがひ）に融（ゆう）通（づう）せバ天（てん）より憐（あはれ）ミ恵（めぐ）ミ給ひ
ておのづから五（ご）穀（こく）も豊（ほう）熟（じゆく）して飢（き）饉（きん）の憂（うれへ）なく
萬（ばん）民（みん）ゆたかに衣（い）食（しよく）居（きよ）室（しつ）の財（ざい）用（よう）もことごとく
たりぬべし乱（こゞ）をさまる世（よ）の昔（むかし）にかはりめでたく
治（おさま）まる太平の御（み）代（よ）に生（むま）れあひし難（あり）有（がた）さ
かぎりなきさの冥（めう）加（が）を知（し）り奉（たてまつ）りて倹（けん）約（やく）をまもり

粗食(そじき)をいとし己(おのれ)〻の道(みち)を勤(つとめ)なバ永(なが)く万世(ばんせい)の福(さきはひ)を受(うく)るの術(てだて)なるべしと愚(おろか)なる素意(そい)を同(どう)志(し)の人(ひと)〻に勧(すゝむ)ることゝなり

因ニ云先年菜(な)雑炊(ざうすゐ)の仕法(しはう)として施印(せいん)なりしをこゝに記(しる)す

白米(こめ)貮合　大麦(むぎ)壱合　泔水(こめのしる)三升

此中へ菜(な)　大こん　ごぼう　里(さと)いも　さつまいも

蕪(かぶ)　大こんの干(ひ)葉(ば)　芋(いも)ずいき　なしめ

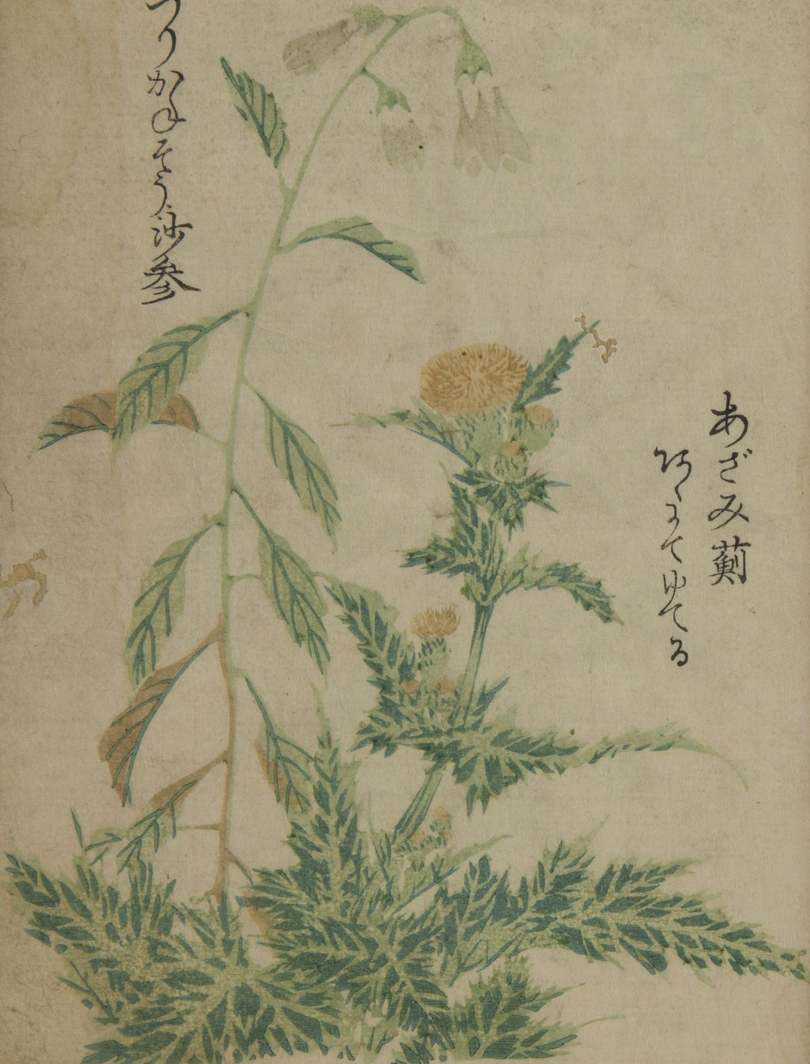
ひじき　摘菜の類

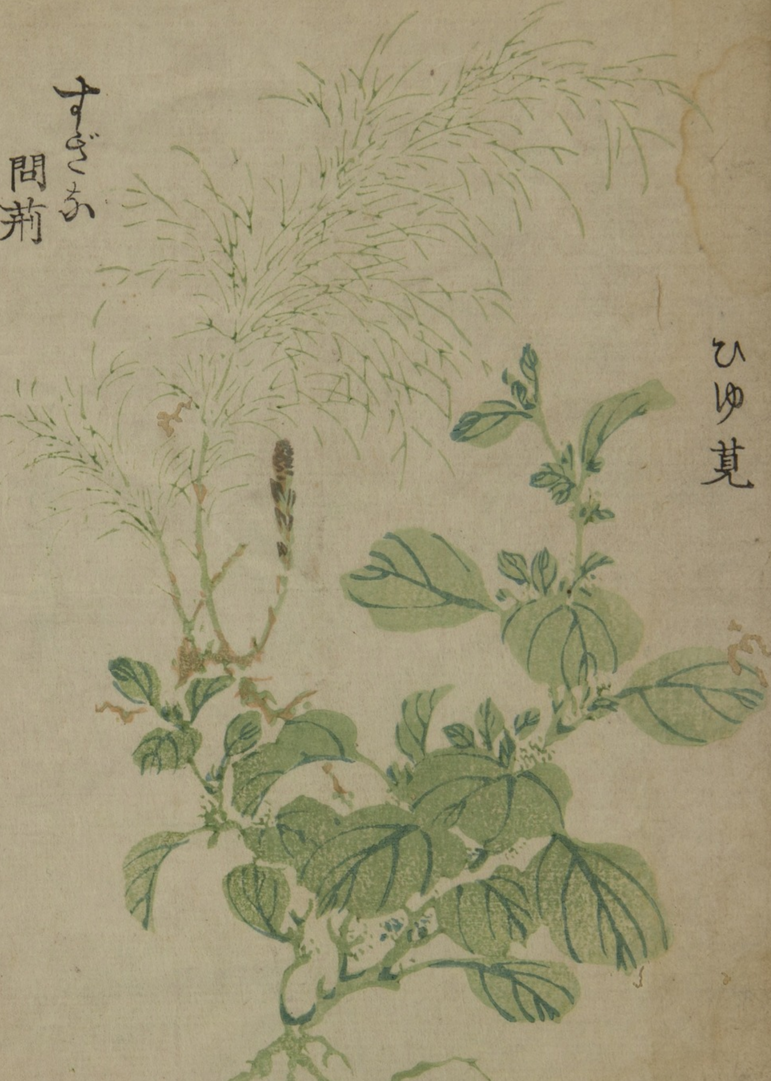
右ハ類細かに切沢山に入まぜよく煮たる時味噌三拾目ばかり塩ハよきさ程入焚て一時汁もよし奥あり此分量にて凡十五六人前の一度の食にあるよし

飢饉の年人の多く死せるハ冬の末春の初より三月頃までに多きものなり此比菜大根いもなどを取納め食物にする品々てもすくなきことなり其頃に取べき艸類を常にあつめ記しおくことなり

つりかねそう沙参

あざみ薊
ひくろてゆてる



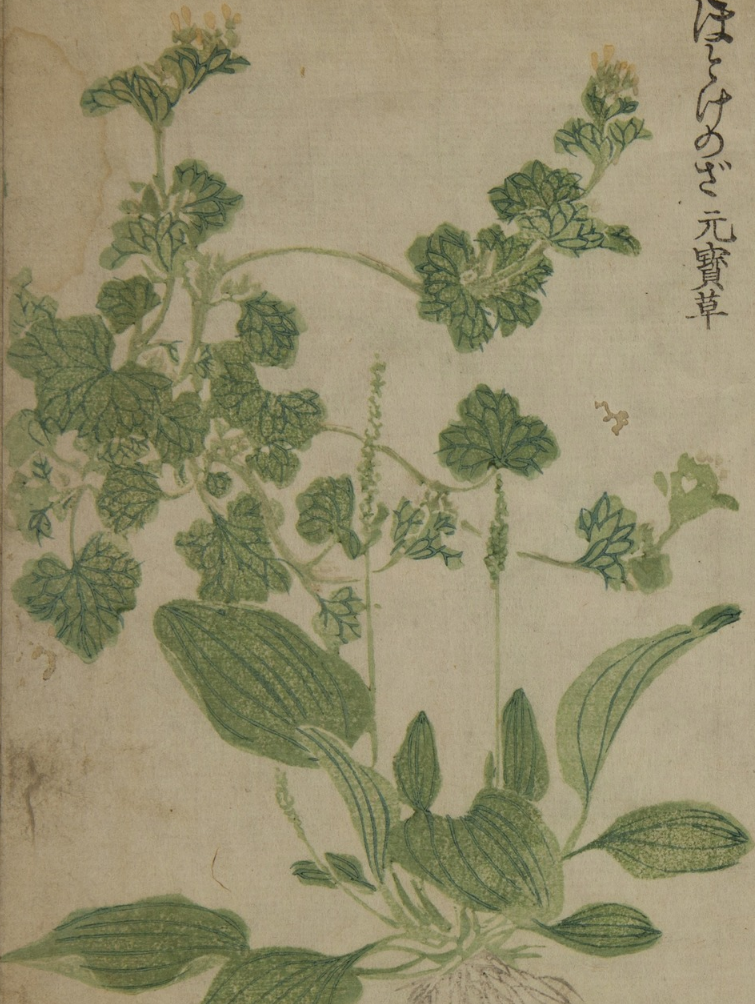


ひゆ
莧

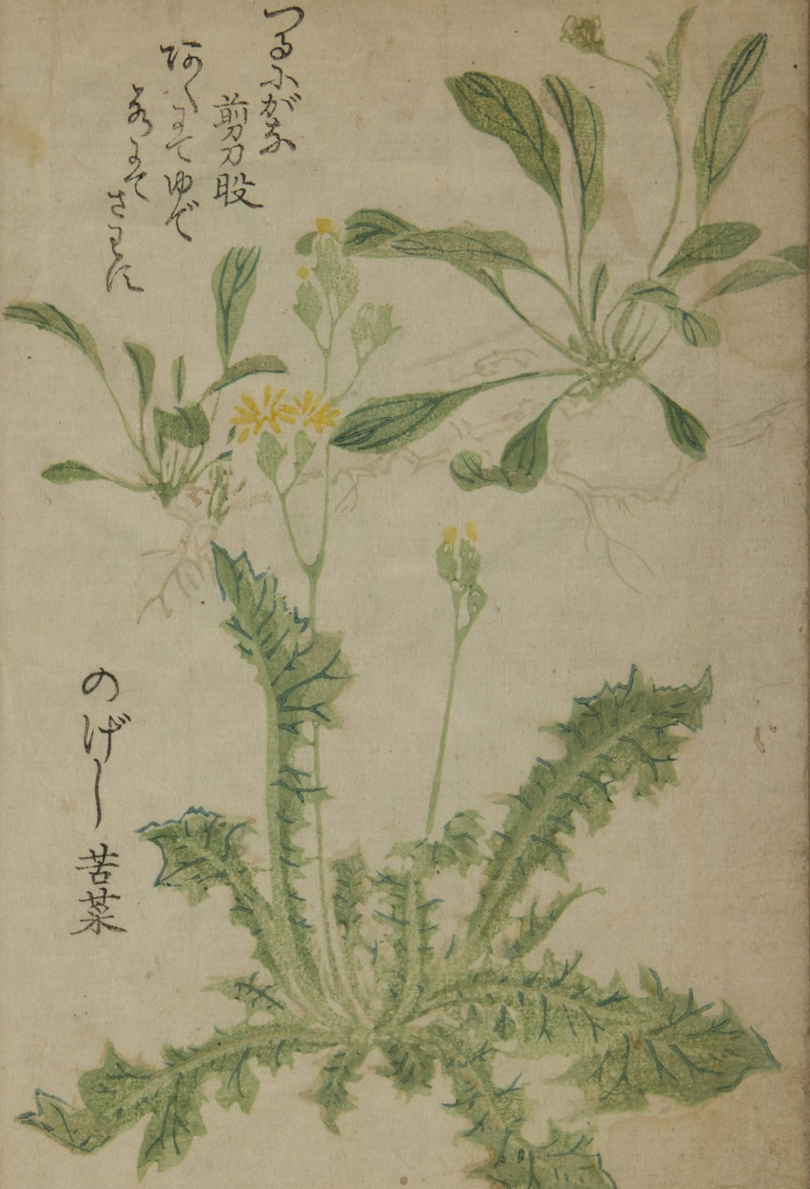
すぎな
問荊

ほとけのざ 元寶草

おほばこ 芣苢

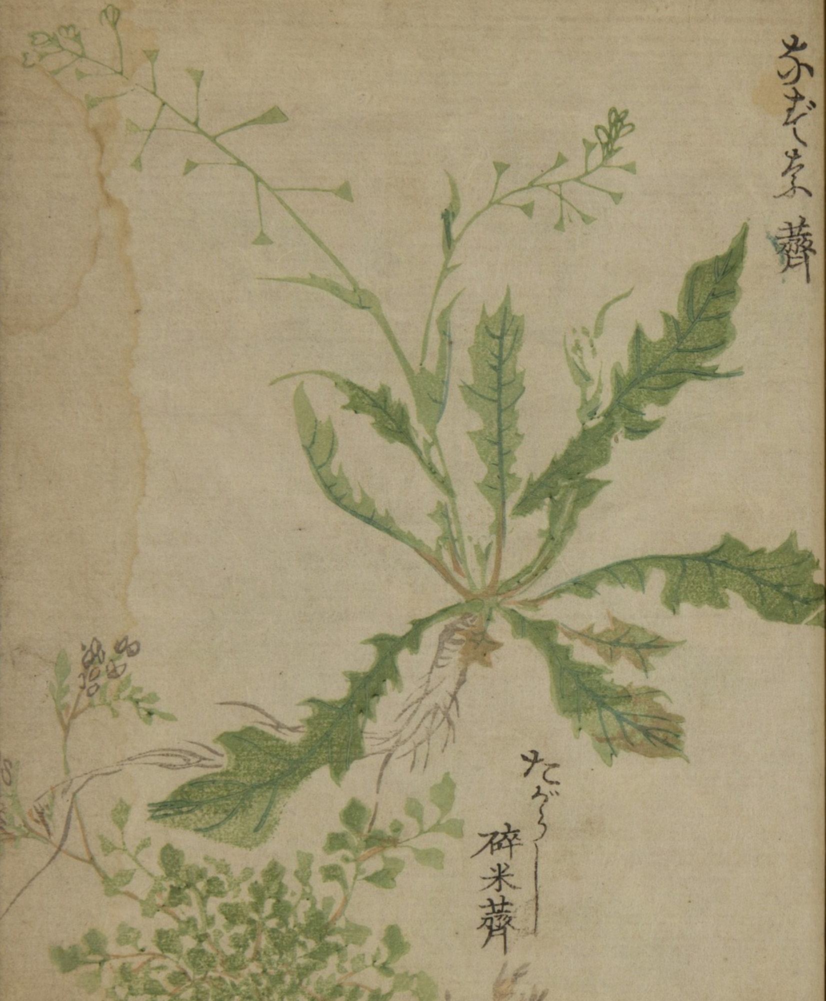


つるふがま 剪刀股
なくまてゆで
あつまてさらん

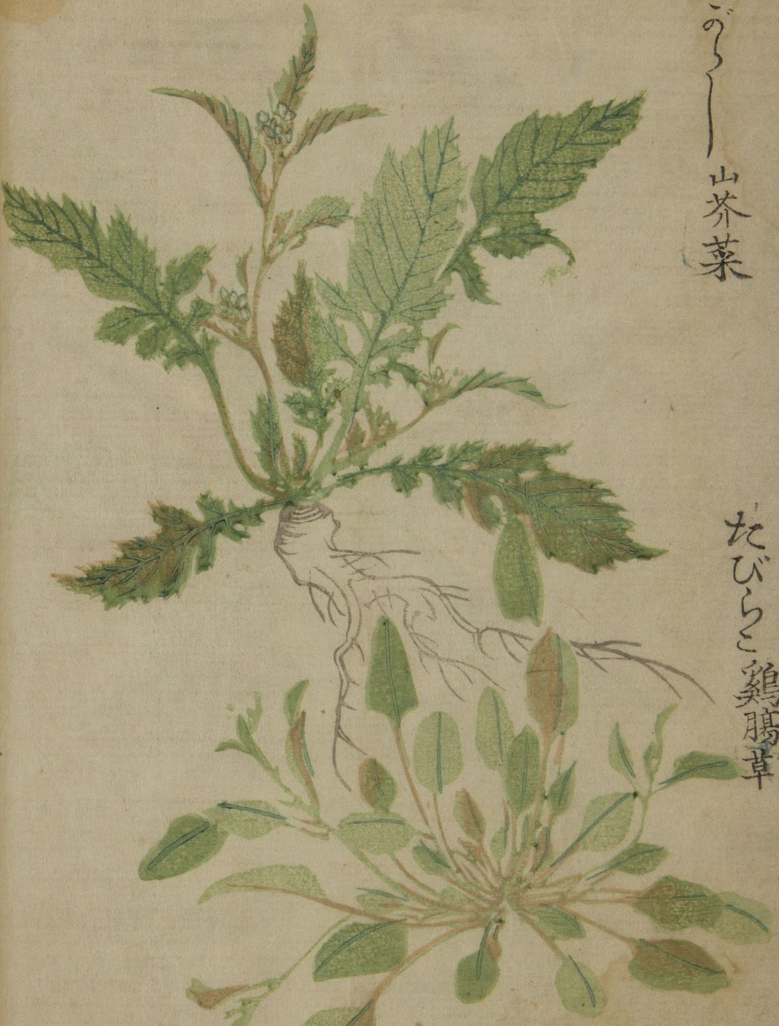


のげし 苦菜

なずな薺

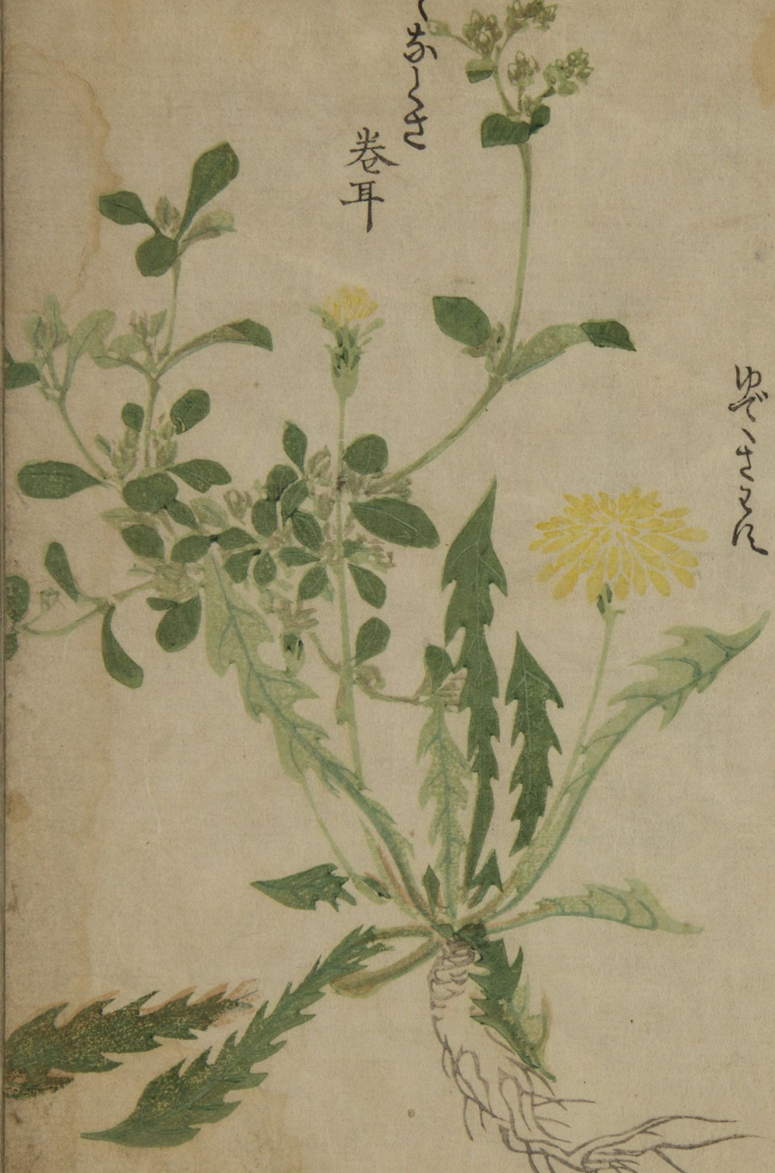


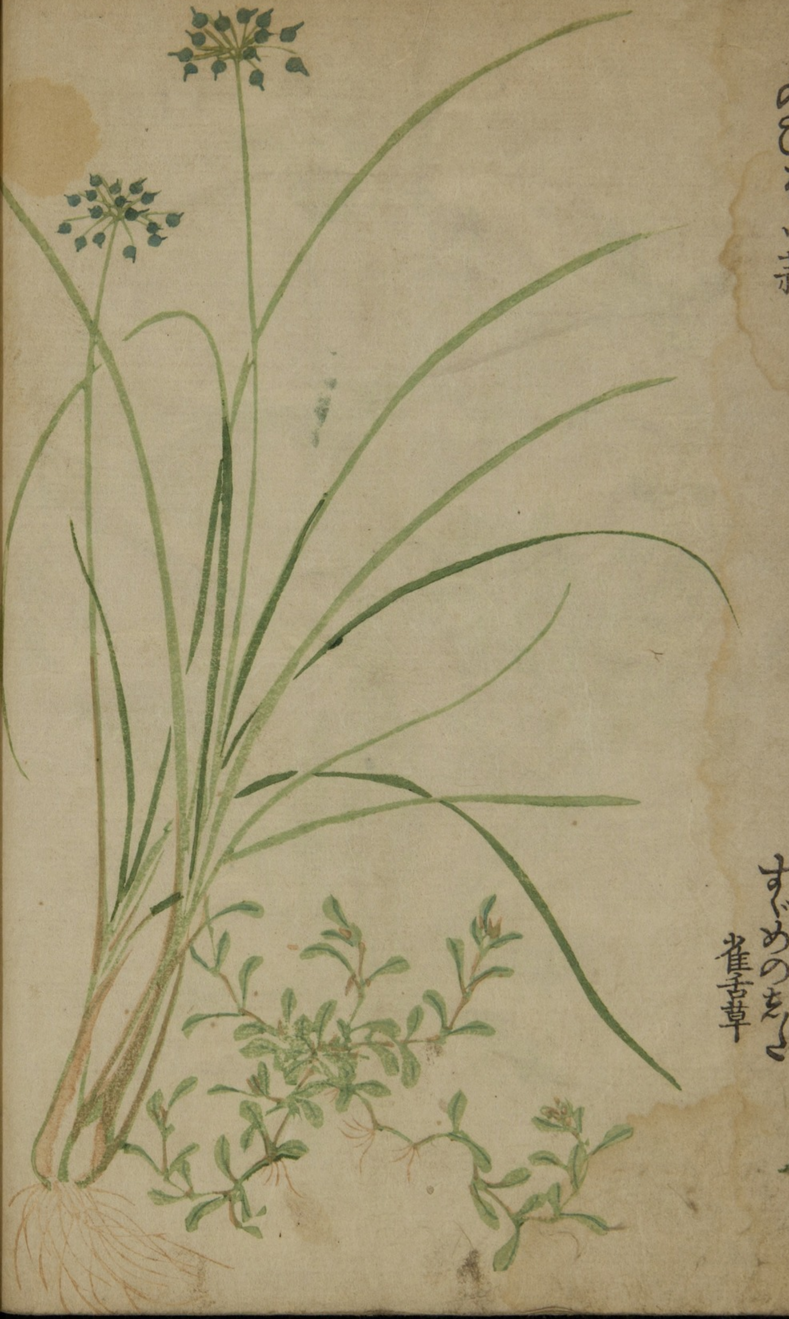
たてがらし
碎米薺



いぬがらし山芥菜

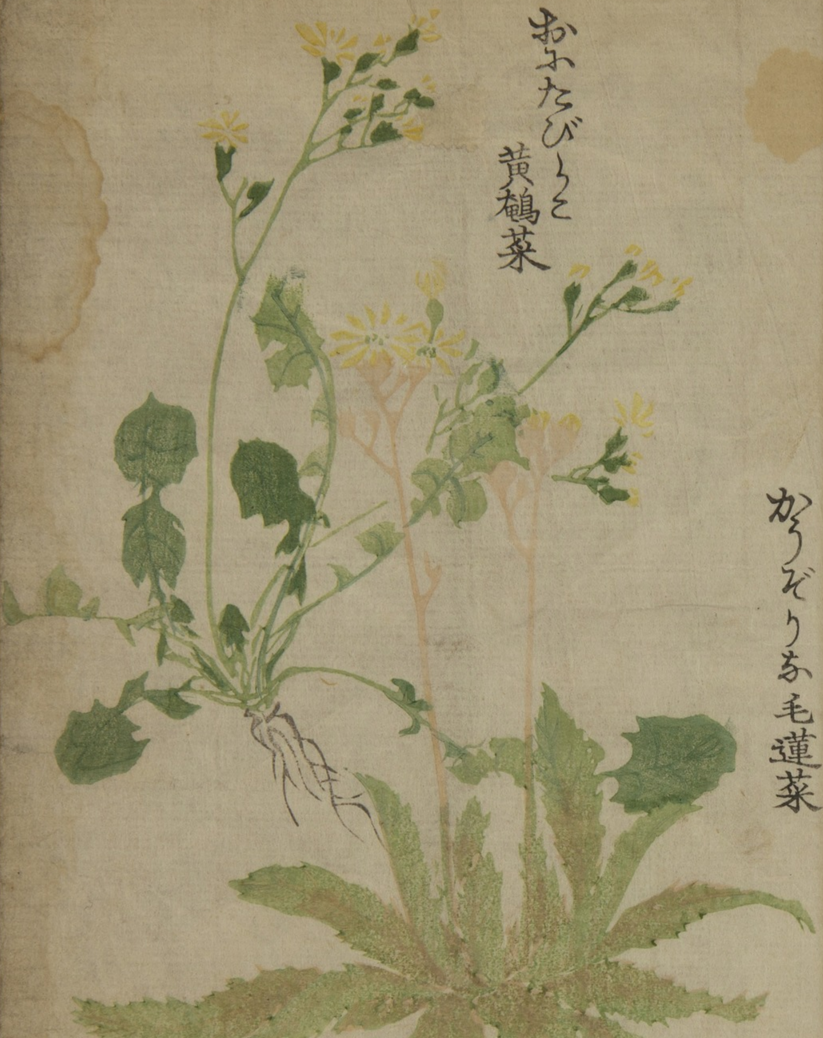
たびらこ鷄腸草


たんほゝ蒲公英
ゆでゝさるん
みゝなくさ
巻耳



のびる山蒜

すゞめのしく雀舌草


かうぞりな毛蓮菜
おふたびらこ黄鶴菜

此外（このほか）人々の能知る所の救荒を略（りやく）しぬ

せり 芹　はこべら 繁縷　ひるがほの根 葍子根

くこ 枸杞　はまぼうふう 防風　よめな 雞児腸

わらびこ 蕨根　ゆきのした 虎耳草　うど 土當帰

かんぞうの芽 萱草　藤（ふぢ）の芽（め） 紫藤　榎（えのき）の芽（め） 朴[illegible]

たらの芽 楤木　りやうぶ 山茶科

嘉永四年辛亥春　安濃津　寛栗堂
渾沌舎 施印

L616
H

沖 2,50

三重県立図書館
140014812